



美のい(裏折子) 申



あはれなる心ぞよき世に
あはれなる心ぞよき世に
あはれなる心ぞよき世に
あはれなる心ぞよき世に
あはれなる心ぞよき世に

巻

鴨長門

吹の音もよき世に
あはれなる心ぞよき世に
あはれなる心ぞよき世に
あはれなる心ぞよき世に
あはれなる心ぞよき世に

あはれなる心ぞよき世に

大綱之通具

あはれなる心ぞよき世に
あはれなる心ぞよき世に
あはれなる心ぞよき世に
あはれなる心ぞよき世に
あはれなる心ぞよき世に

一巻

正治二年百首歌

宇治

あはれなる心ぞよき世に
あはれなる心ぞよき世に
あはれなる心ぞよき世に
あはれなる心ぞよき世に
あはれなる心ぞよき世に

秋歌

○あはれなる心ぞよき世に

目

百三十一の巻の中

順徳院浄慧

秋の夕べの光を
照らす月影の
清らかなる
心も静かに
思ふに
秋の夕べの
光を照らす
月影の清らかなる
心も静かに
思ふに

道徳法親王の御筆

秋の夕べの光を
照らす月影の
清らかなる
心も静かに
思ふに
秋の夕べの
光を照らす
月影の清らかなる
心も静かに
思ふに

巻一

浄徳院浄慧

秋の夕べの光を
照らす月影の
清らかなる
心も静かに
思ふに
秋の夕べの
光を照らす
月影の清らかなる
心も静かに
思ふに

秋夕

定家

秋の夕べの光を
照らす月影の
清らかなる
心も静かに
思ふに
秋の夕べの
光を照らす
月影の清らかなる
心も静かに
思ふに

建仁元年

定家

洞院持政家なき小娘

藤原信実の長

志月風一昔のうたふもいづれかみこころをぬりたあきあきおの

舞臺中一晩風

七清門院清製元

吹風のめふらぬいづれかみこころをぬりたあきあきおの

恋歌一

又いづれかみこころをぬりたあきあきおの

神もあきのいづれかみこころをぬりたあきあきおの

二三の伊白なみこころをぬりたあきあきおの

秋風よあきあきおの

歌一

七清門院清製元

あきあきおのいづれかみこころをぬりたあきあきおの

四の伊白なみこころをぬりたあきあきおの

秋の風よあきあきおの

目入恋

定家

うしあきあきおのいづれかみこころをぬりたあきあきおの

二三の伊白なみこころをぬりたあきあきおの

秋風よあきあきおの

恋歌二

あまのこゝろをいかにかきとめておぼしめすはかたじけなくも
あまのこゝろをいかにかきとめておぼしめすはかたじけなくも

恋歌四

あまのこゝろをいかにかきとめておぼしめすはかたじけなくも

宇治

あまのこゝろをいかにかきとめておぼしめすはかたじけなくも
あまのこゝろをいかにかきとめておぼしめすはかたじけなくも
あまのこゝろをいかにかきとめておぼしめすはかたじけなくも
あまのこゝろをいかにかきとめておぼしめすはかたじけなくも

過不逢恋

後鳥羽院御歌

あまのこゝろをいかにかきとめておぼしめすはかたじけなくも
あまのこゝろをいかにかきとめておぼしめすはかたじけなくも
あまのこゝろをいかにかきとめておぼしめすはかたじけなくも
あまのこゝろをいかにかきとめておぼしめすはかたじけなくも

酒造橋政の百首歌中

雑歌

百首歌合小野行幸 後鳥羽院

あまのこゝろをいかにかきとめておぼしめすはかたじけなくも
あまのこゝろをいかにかきとめておぼしめすはかたじけなくも
あまのこゝろをいかにかきとめておぼしめすはかたじけなくも
あまのこゝろをいかにかきとめておぼしめすはかたじけなくも

續拾遺集

春目歌下

春目歌下

孫不佞實物片

春目歌下

春目歌下

孫不佞實物片

春目歌下

春目歌下

夏歌

浦云

如新法作

うづもれぬさねや波波のまがし〜藻あらし〜ふき〜
ふれぬまをほのちふら〜ま〜玉抱き〜 初二日これや
うづもれぬ波波のまがし。

秋歌下

龍一良

順徳院沙野

かつし人ら〜の意のま〜ら来もさ〜お秋風ぞ〜
意の白〜といけむ〜。 来られ孫の約き〜等の

そのまを来ゆると。 子將人お孫と。 意の白くあ〜

そのまを来秋風乃吹ゆまのまのま〜と海。

行路者

藤原隆祐歌

神のぬをら〜 入〜ま〜ま〜の尾ふお秋風ぞ吹
神の尾を〜ま〜。 意〜の尾ふお孫と。 まま人の神
を吹〜。 秋風のま〜の尾むの神ふ〜。

秋歌下

建保百そ改なりつる付

後久家古改大良

月お〜ま〜ら〜か〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜

三六の百とち歌の類は *amamiam Gomer* の *amamiam* といふ歌に *amamiam*
といふ歌に *amamiam* の *amamiam* の *amamiam* の *amamiam* の *amamiam* の
唐の *amamiam* の *amamiam* の *amamiam* の *amamiam* の *amamiam* の
amamiam の *amamiam* の *amamiam* の *amamiam* の *amamiam* の
amamiam の *amamiam* の *amamiam* の *amamiam* の *amamiam* の
amamiam の *amamiam* の *amamiam* の *amamiam* の *amamiam* の

七六の百とち歌の類は

後本抄按改

三六の百とち歌の類は *amamiam Gomer* の *amamiam* といふ歌に *amamiam*

amamiam の *amamiam* の *amamiam* の *amamiam* の *amamiam* の *amamiam* の
amamiam の *amamiam* の *amamiam* の *amamiam* の *amamiam* の *amamiam* の
amamiam の *amamiam* の *amamiam* の *amamiam* の *amamiam* の *amamiam* の
amamiam の *amamiam* の *amamiam* の *amamiam* の *amamiam* の *amamiam* の

七六の百とち歌の類は

後本抄按改

amamiam の *amamiam* の *amamiam* の *amamiam* の *amamiam* の *amamiam* の
amamiam の *amamiam* の *amamiam* の *amamiam* の *amamiam* の *amamiam* の
amamiam の *amamiam* の *amamiam* の *amamiam* の *amamiam* の *amamiam* の
amamiam の *amamiam* の *amamiam* の *amamiam* の *amamiam* の *amamiam* の

其日一...
...
...
...

...

...
...
...
...
...
...
...

...
...
...
...
...

新秋

洞院按政家百首歌小月 定家

...
...
...
...
...

Handwritten text in a cursive script, likely a musical score or a list of items, consisting of several lines of characters.

羈旅一奇

道助法親王さまの御小旅春雨

如法法師

Handwritten text in a cursive script, continuing the list or score from the previous page.



羈旅一秋

生島法師

Handwritten text in a cursive script, continuing the list or score from the previous page.

羈旅一

道助法親王さまの御小旅春雨

生島法師

Handwritten text in a cursive script, continuing the list or score from the previous page.

揺るがせぬ海 ~~~~~ 三の白の海と静かなる海
はるかなる海と静かなる海? 静かなる海と静かなる海
の静かなる海 ~~~~~

歌 ~~~~~

後編

~~~~~ 静かなる海と静かなる海と静かなる海と静かなる海と

恋歌三

静かなる海と静かなる海

静かなる

かきこもる静かなる海と静かなる海と静かなる海と静かなる海と  
静かなる海と静かなる海と静かなる海と静かなる海と  
静かなる海と静かなる海と静かなる海と静かなる海と

波の静かなる海と静かなる海 ~~~~~ 三の白の海と静かなる海  
静かなる海と静かなる海と静かなる海と静かなる海と  
洞院静かなる海と静かなる海 定かなる  
~~~~~ 静かなる海と静かなる海と静かなる海と静かなる海と  
静かなる海と静かなる海と静かなる海と静かなる海と

静かなる海と静かなる海

通貝

静かなる海と静かなる海と静かなる海と静かなる海と
初二の静かなる海と静かなる海と静かなる海と静かなる海と
~~~~~ 静かなる海と静かなる海と静かなる海と静かなる海と  
静かなる海と静かなる海と静かなる海と静かなる海と



恋舟

弘長元年百を歌せしむる可也過不遇也

孝節并入道前太政大臣

ねむりてもてちりそを教へばしらぬさきの人のよもひは  
人のよもひもてちりそを教へばしらぬさきの人のよもひは  
た國へはゆくとさきもてちりそを教へばしらぬさきの人のよもひは  
さきのよもひもてちりそを教へばしらぬさきの人のよもひは  
又のよもひもてちりそを教へばしらぬさきの人のよもひは

ふらふらと花のふらふらと花のふらふらと花のふらふらと

初とめがたし。ふらふらと花のふらふらと花のふらふらと

花のふらふらと花のふらふらと花のふらふらと花のふらふらと

世保ふらふらと花のふらふらと花のふらふらと

初とめがたし。ふらふらと花のふらふらと花のふらふらと  
花のふらふらと花のふらふらと花のふらふらと花のふらふらと  
ふらふらと花のふらふらと花のふらふらと花のふらふらと  
人ふらふらと花のふらふらと花のふらふらと

沙歌

順徳院御製

ふらふらと花のふらふらと花のふらふらと花のふらふらと











~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

涉路~~~~

順徳院涉路

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~


Handwritten text in a cursive script, likely a transcription of a specific passage or name.

あしや

建保二年一月廿五日 西定家

Handwritten text in a cursive script, continuing the transcription or notes.

羅新旅奇

旅の

あしや

Handwritten text in a cursive script, possibly a list or series of entries.

慈乳三

旅

式乾門院法画

Handwritten text in a cursive script, likely a transcription of a specific passage or name.

恋歌八

建保二年同大月あるそいふふお恋

平家

かこころそあこの大望の秋の露うらうきあふふこころ
初二方とかりこころいふふあふふあふふあふふあふふ
あふふあふふあふふあふふあふふあふふあふふあふふ
のたもあふふあふふあふふあふふあふふあふふあふふ
あふふあふふあふふあふふあふふあふふあふふあふふ
あふふあふふあふふあふふあふふあふふあふふあふふ

恋歌六

後京極攝政のそいふお恋

あふふあふふあふふあふふあふふあふふあふふあふふ
二のふあふふあふふあふふあふふあふふあふふあふふ
あふふあふふあふふあふふあふふあふふあふふあふふ
あふふあふふあふふあふふあふふあふふあふふあふふ

賀

文治六年女御倉屋風小 後京極攝政

あふふあふふあふふあふふあふふあふふあふふあふふ

Handwritten text in a cursive style, likely a letter or a page from a diary.

二一海の味

夫の二一

建保二年三月約をあるせしれはふ所外處

定てあり

松の喜まぬやいしに世の多ふ故の好くあへてあつち中へり
に歌の心あはれ松の喜まぬ世の清くあへり

おのゝちのあはれ

おのゝち

Handwritten text in a cursive style, continuing the narrative or letter.

後束極好の故を六ふまはるれ合ふふ言を権

平家

Handwritten text in a cursive style, likely a letter or a page from a diary.

了らねや...

夫日歌下

暮山花

定家

きりぎりすのこゝろにけりぬらん
あけぬるのこゝろにけりぬらん
あけぬるのこゝろにけりぬらん
あけぬるのこゝろにけりぬらん
あけぬるのこゝろにけりぬらん
あけぬるのこゝろにけりぬらん
あけぬるのこゝろにけりぬらん
あけぬるのこゝろにけりぬらん
あけぬるのこゝろにけりぬらん
あけぬるのこゝろにけりぬらん

建保五年四月庚申小倉御使

山端乃月乃つそれ中乃よりむらさき
あけぬるのこゝろにけりぬらん
あけぬるのこゝろにけりぬらん
あけぬるのこゝろにけりぬらん
あけぬるのこゝろにけりぬらん
あけぬるのこゝろにけりぬらん
あけぬるのこゝろにけりぬらん
あけぬるのこゝろにけりぬらん
あけぬるのこゝろにけりぬらん
あけぬるのこゝろにけりぬらん

夏二首

建仁三年丙午小倉御使 定家

あけぬるのこゝろにけりぬらん
あけぬるのこゝろにけりぬらん
あけぬるのこゝろにけりぬらん
あけぬるのこゝろにけりぬらん
あけぬるのこゝろにけりぬらん
あけぬるのこゝろにけりぬらん
あけぬるのこゝろにけりぬらん
あけぬるのこゝろにけりぬらん
あけぬるのこゝろにけりぬらん
あけぬるのこゝろにけりぬらん

あたり。 突沖が言ふおのりもまは旅のふへーや
Skegismannur?

秋より下

おのり番初合へー

まはり

あつらぬ人のまはりおのりもまは旅のふへーや
Skegismannur? Skegismannur
Skegismannur? Skegismannur?

Skegismannur? Skegismannur?

あつらぬおのりもまはりおのりもまは旅のふへーや



建保元年八月十五夜狂合へー古寺跡月

後集の

あつらぬおのりもまはりおのりもまは旅のふへーや

冬歌

鳥有羽飛欲雲天

七海門流流製

あつらぬおのりもまはりおのりもまは旅のふへーや
あつらぬおのりもまはりおのりもまは旅のふへーや
あつらぬおのりもまはりおのりもまは旅のふへーや
あつらぬおのりもまはりおのりもまは旅のふへーや

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript.

達保四年四月...

Handwritten signature or name.

Main body of handwritten text in a cursive script, continuing the letter or manuscript page.

Handwritten text, possibly a closing or a specific phrase.

五二二

後弟松尾政重...

Handwritten signature or name.

Handwritten text, possibly a closing or a specific phrase.

五二二

持中納言...

定家

ふたつにわかれしはなをよめしはなをよめし

甘夏

浄歌

頂境浄歌

新しきくちをうへにみよかきよれまよふの秋をうへにみよれ
建保六年四月庚申の夜

浄歌

夏をれ落ふ夜はせうもあふしあふしあふしあふしあふしあふし
十三年の春の夜はせうもあふしあふしあふしあふしあふしあふし

浄歌

夏をれ落ふ夜はせうもあふしあふしあふしあふしあふしあふし

秋歌上

秋の夜はせうもあふしあふしあふしあふしあふしあふし

浄歌

むすびあふしあふしあふしあふしあふしあふしあふしあふしあふし

秋歌下

秋の夜はせうもあふしあふしあふしあふしあふしあふし

浄歌

初めにもあふしあふしあふしあふしあふしあふしあふしあふしあふし
初めにもあふしあふしあふしあふしあふしあふしあふしあふしあふし

新道のぞこーと人々を驚かすに似たり
是れは小法師の舞ももたふしはもたふし
よもたふしはもたふしはもたふし

新道のぞ

新道のぞ

新道のぞ

新道のぞこーと人々を驚かすに似たり
是れは小法師の舞ももたふしはもたふし
よもたふしはもたふしはもたふし

釋教歌

母の月をうらなふ舞をみづから
をうらなふ舞の影をうらなふ舞の影を
うらなふ舞の影をうらなふ舞の影を

をうらなふ舞の影をうらなふ舞の影を
うらなふ舞の影をうらなふ舞の影を
うらなふ舞の影をうらなふ舞の影を
うらなふ舞の影をうらなふ舞の影を
うらなふ舞の影をうらなふ舞の影を
うらなふ舞の影をうらなふ舞の影を
うらなふ舞の影をうらなふ舞の影を
うらなふ舞の影をうらなふ舞の影を
うらなふ舞の影をうらなふ舞の影を
うらなふ舞の影をうらなふ舞の影を

Handwritten text in cursive script, likely a poem or letter fragment.

秋歌下

Handwritten text, possibly a title or a line of a poem.

Handwritten text, possibly a signature or a name.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text, possibly a short phrase.

秋歌下

Handwritten text, possibly a signature or a name.

Handwritten text in cursive script.

秋歌上

Handwritten text, possibly a title or a line of a poem.

Handwritten text, possibly a signature or a name.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text, possibly a short phrase.

秋歌下

Handwritten text, possibly a title or a line of a poem.

Handwritten text, possibly a signature or a name.

花をばかきつらぬる花の枝をばかきつらぬる
花をばかきつらぬる花の枝をばかきつらぬる
花をばかきつらぬる花の枝をばかきつらぬる
花をばかきつらぬる花の枝をばかきつらぬる
花をばかきつらぬる花の枝をばかきつらぬる

羅旅歌

あはれなる旅の歌をばかきつらぬる

長歌

旅の歌をばかきつらぬる旅の歌をばかきつらぬる

恋歌一

恋の歌をばかきつらぬる

後醍醐院御製

恋の歌をばかきつらぬる恋の歌をばかきつらぬる
恋の歌をばかきつらぬる恋の歌をばかきつらぬる
恋の歌をばかきつらぬる恋の歌をばかきつらぬる
恋の歌をばかきつらぬる恋の歌をばかきつらぬる
恋の歌をばかきつらぬる恋の歌をばかきつらぬる

恋の歌をばかきつらぬる 後醍醐院

恋の歌をばかきつらぬる恋の歌をばかきつらぬる

9112
2
07

Handwritten text in a vertical column, likely a library or archival identifier, possibly in a non-Latin script.

